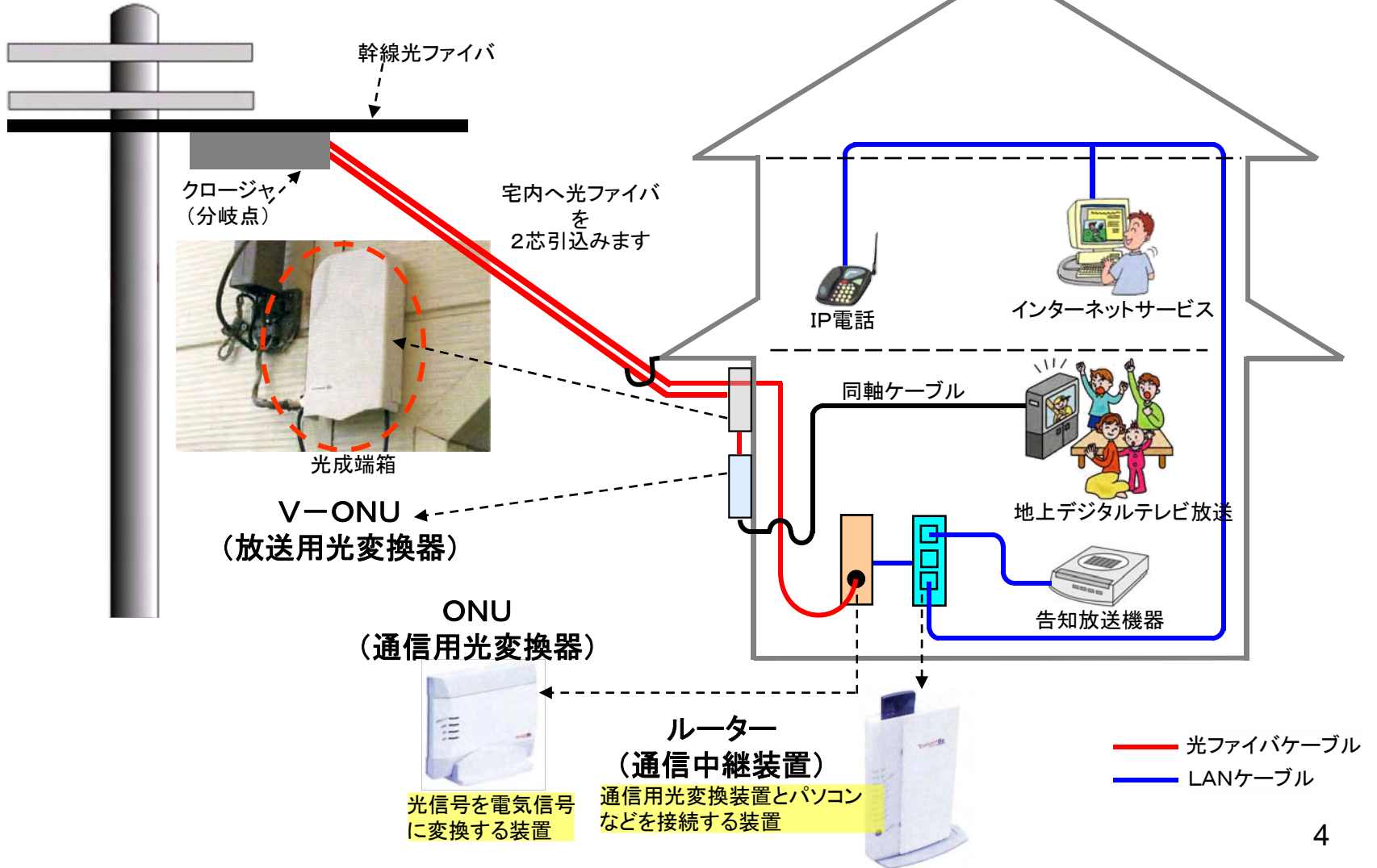
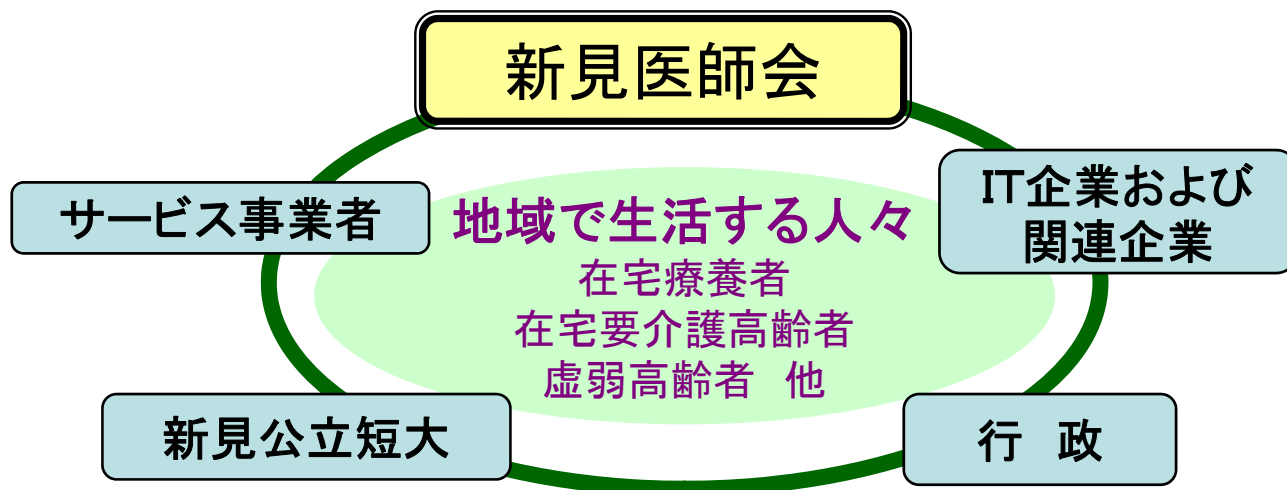


ラストワンマイル計画



遠隔在宅医療支援システム研究会

平成16年より立ち上げた。新見医師会が進めている遠隔在宅医療支援事業の実証実験は、地域の医療と福祉の充実のため、高速なネットワーク等を利用し、**民、産、学、官が連携して**研究を進めている。



遠隔在宅医療支援システム研究会組織図

システム決定の理由 ①

新見地区医療機関の事情と問題点

1. 各医療機関の関係は良好である。
2. 医療機関と新見市との関係も良好である。
3. 各医療機関でIT関連の試みは全く行われていなかった。

(電子カルテを採用している医療機関はない)

システム決定の理由 ②

医療法など法律上の制限

1. 対面診療原則があり遠隔医療が認められているのは慢性患者のみである。
2. 在宅患者側対応は看護師など有資格者の方が問題が少ない。
3. セキュリティーの問題がある。

システム決定の理由 ③

実証実験システム

1. 新見医師会、新見市、地元企業、新見公立短大など地区全体で取り組む。
(在宅医療支援システム研究会立ち上げ)
2. 医療機関と患者自宅をIPTV電話を利用するシステムとした。
(在宅患者側は訪問看護師が対応する)
3. 扱う情報は視覚聴覚情報のみとする。

IPTV電話の特徴

- 起動時間が短い
- 携帯時の衝撃に強い
- 高画質
- 画面のうごきがなめらか
- 操作が簡単（電話と同等）

他の機器との比較

	IPTV電話	パソコン	携帯電話
起動時間	10秒程度	数分	瞬時
画面の大きさ	最大15インチ程度	最大15インチ程度	2.4インチ
重量	中	中	軽
耐衝撃性	○	衝撃に弱い部品がある	○

遠隔在宅医療支援システム

- ①訪問看護師は携帯型通信端末を持ち、在宅療養者宅に訪問する。
- ②観察およびケアの後、携帯型通信端末をセットし、医師側との通信回線を接続する。
- ③画面に映る医師の顔を見ながら在宅療養者の様子などを伝える。

携帯型通信端末（医心伝信）の特徴

- 臨場感のある大きな画面サイズ（14インチ）
- 高速起動（約11秒）と簡単な操作方法
- 患部撮影用のビデオカメラ
- 鮮明な映像を撮影するための小型デジタルカメラ
- その他（マイク、端末の形状）



